

糸満市市民活動支援センター 2015 年度 事業報告書



▲2016 年 2 月 14 日 第 23 回糸満市健康福祉まつり with 糸満まちづくりカフェ 2016

管理・運営
特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

2016 年 3 月

はじめに

1995年の阪神淡路大震災での市民の活動が契機となり生まれたNPO法が、施行16年を迎え、その後の法改正や新寄付税制が整備されつつあります。一方で、認定NPO法人制度に関する税制優遇措置を削減させるような動きもあり、市民・NPOがより活動しやすい環境整備について市民・議員を超えての議論と行動が求められています。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災から4年が経過しましたが、東北の被災地における復興の道のりについて、引き続き多くの市民やNPOが生活再建・復興に尽力しています。

こうした中、糸満市において2011年10月29日、糸満南小学校跡地にオープンした「糸満市市民活動支援センター」も糸満市中央市場に拠点を移し、3年度を終えました。

2011年度は最低限の機能整備と周知を行い、2012年度にはテーマ型座談会の開発や「市民提案型まちづくり補助金事業」の事務局を担当、2013年度には、初の「糸満まちづくりカフェ」の実施と「農村地域再生発見事業」の大里地区でのキックオフなどに取り組んできました。

センター運営4年目となる2014年度は、2014-2016年度の3ヵ年契約での初年度の運営となり、地域の課題に向き合い、解決と協働のきっかけとなる「テーマ型座談会」の実施、「資金」循環プログラムとしての「市民提案型まちづくり事業補助金～より開かれ、育ち合う～」の運営、「人」の循環のしくみとしての「まちづくりカフェ～異分野・異業種のネットワーク化～」の開催、糸満市地域おこし協力隊と連携した農村における地域自治活動を育てる「農村地域再生発見事業」を中心に取り組みました。

この4年を通じて、市民活動支援センターの「周知」と「信頼」が少しずつ広がり、人口7万人の糸満市における市民活動支援の柱となる取組みが構築されつつあると感じています。

今後は、構築してきた市民活動支援の取組みを強化しつつ、より地域に目を向けた地域支援施策の提案や糸満市における中間支援の体制強化に向けて取り組んでまいります。

糸満市市民活動支援センター
(管理運営/NPO法人まちなか研究所わくわく)
センター長 宮道 喜一

目次

はじめに

目次

第1章	2014年度総括と市民活動をとりまく社会環境	1
1-1	2014年度事業の総括	
1-2	糸満市をとりまく地域環境と市民活動環境	
1-3	2014年度 市民活動をとりまく社会環境をふりかえる	
第2章	ハイライト	13
2-1	数字でふりかえる市民活動支援センターの4ヵ年	
2-2	糸満市市民活動支援センターに関する出来事	
2-3	糸満市市民活動支援センター 事業トピックス	
(1)	市民提案型まちづくり事業の企画推進	
(2)	市民活動講座の開催	
(2)-1	市民活動講座（補助金申請書書き方）の開催	
(2)-2	市民活動講座（会計）の開催	
(3)	まちづくりカフェの開催	
(4)	テーマ型座談会の開催	
(4)-1	テーマ型座談会（資源循環）の開催	
(4)-2	テーマ型座談会（地域自治）の開催	
(5)	市民活動相談	
(5)-1	市民活動相談	
(5)-2	専門家による相談	
(6)	市民活動の見える化・情報発信	
(6)-1	広報紙「日々是好日」の発行	
(6)-2	ブログで情報発信	
(6)-3	市民活動便利帳「iいとまんページ」の作成	
(7)	資源循環研究会	
(8)	農村地域再生発見事業	
2-4	利用実態	
	糸満市市民活動支援センター利用統計	
2-5	フォトギャラリー2014	
第3章	収支概要	35
第4章	運営について	37
4-1	糸満市市民活動支援センター 事業推進体制	
4-2	市合同月例ミーティング&スタッフミーティング	
	2014年度 糸満市市民活動支援センター事業スケジュール	
	2014年度 糸満市市民活動支援センター利用統計	

添付資料

これまで3年と年表とセンター機能、事業評価シート、メディア掲載記事、広報紙など

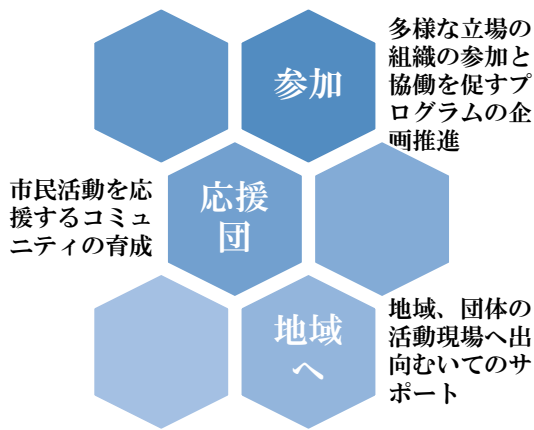
第 1 章 2015 年度総括と 市民活動をとりまく社会環境

■3カ年目標（2014-2016）

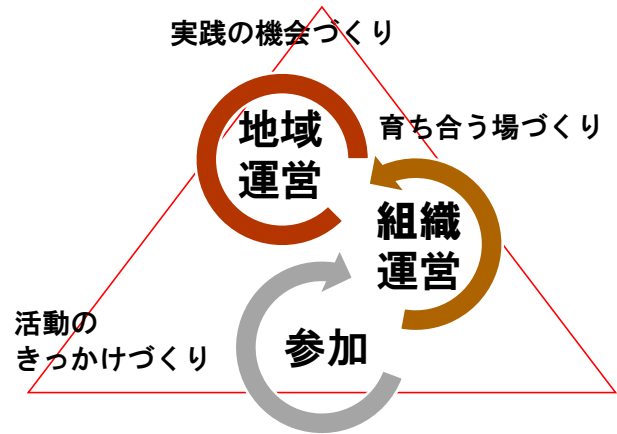
人と活動が 交じり合う「まちづくりカフェ」と
育ち合う「市民提案型まちづくり事業」への
住民参加から協働運営へ
「人」や「資金」の資源が循環するしくみづくり

■センター運営の3つの視点

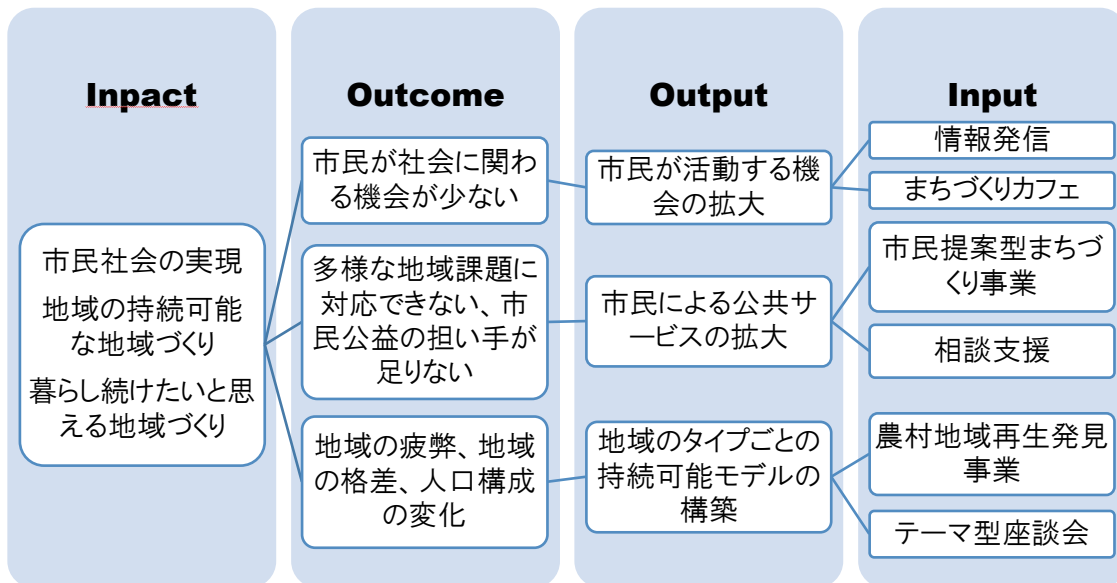
～市民、地域とともに歩む～



■事業を展開する3つのしかけ



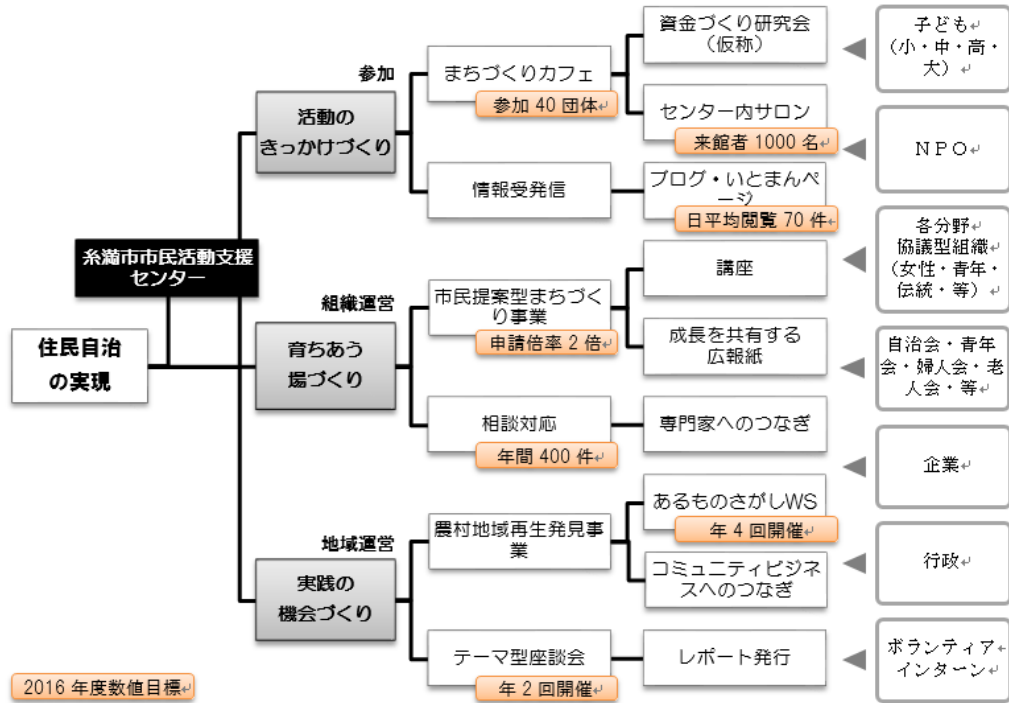
■目指す成果指標



「広げる」 → 「深める」 2015

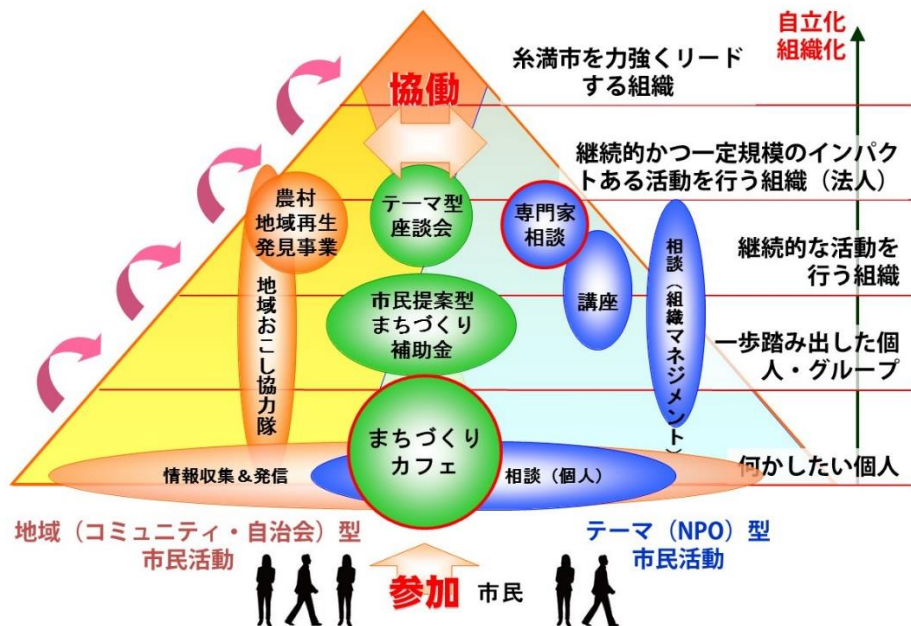
2014.2.16 糸満まちづくりカフェ初開催（会場：糸満市社会福祉センター）

■目標に向けた各事業の位置づけ（2014年度島当初）



■活動の成長段階におけるセンター事業のポジショニング

協働のまちづくりの環境整備＝市民力・地域力アップ



1-1. 2015年度事業の総括

■地域の課題に向き合い、解決と協働のきっかけとなる「テーマ型座談会」の実施

2014-2016 提案	
ねらい	地域の課題の共有／解決のためのアイデア／異分野・異業種の協働
テーマ	1) 子どもが健やかに育つ環境づくり（青少年健全育成） 2) 地域の受け皿となる地域組織の再構築（地域自治） 3) 災害時避難から避難所生活での困難対応へ（地域防災） 4) 協働のルールづくり（協働） 5) 地域が自立するコミュニティビジネス（地域自立） 6) 市民活動を支える（資金づくり研究会（仮称））



2015 年度総括
テーマ6) 市民活動を支える（資金づくり研究会（仮称）） →第8回テーマ型座談会「市内まちづくり活動を支える補助金制度」 糸満市内の活動に対して資金提供される7つのプログラムを担当する5名が集まり、それぞれのプログラムの概要と募集・選考・交付・活動・報告のそれぞれのプロセスにおける課題を共有した。限られた資金（資源）を有効に活用していくために、活動団体にあうプログラムを紹介し合うなど、今後の連携の第一歩となった。

■「資金」循環プログラムとしての「市民提案型まちづくり事業補助金」

～より開かれ、育ち合う～

2014-2016 提案	
ねらい	より開かれたプログラム運営による団体の成長の機会の提供と団体属性と事業内容の多様化
内容	○申請機会の拡大と申請サポート（目標値：申請倍率2倍） 昨年度の交付団体の補助金活用報告会も兼ねた募集説明会の開催（2015-2016年度）／不採択団体の活動PR、フォローアップ／募集期間中の「申請書の書き方・プレゼンテーション」講座、採択後の会計講座の開催などの 公開講座のカリキュラム化 ○開かれたプログラム運営による学びあいの機会提供 公開プレゼンテーションと外部審査委員の参画 ○採択団体の次のステージへの機会 応募書類の作成、プレゼンテーション、会計管理、事業管理、報告書の作成などの補助金プログラムを通じた市民活動力の向上につながるセンター事業の展開／「事業の成果」と「団体の成長」という指標づくり／補助金以外の自主財源の開拓につながる支援 ○「補助」から市民参画型の「マッチングファンド」の検討（資金づくり研究会（仮称）として） 「市民提案型まちづくり事業補助金」プログラムに対する民間寄付と自治体財源からのマッチングによる個別補助プログラムの開発の検討（ふるさと納税制度との連携も含めて）



2015 年度総括

事業年度の上半期中核事業として取り組んだ。昨年度（平成26年度）において、事業募集から選定、実施、報告の年間を通じたプログラムについて、提案事項について一通り構築した。今年度は、審査会における2度目の公開プレゼンテーションを実施した他、審査委員について5名中4名を外部審査員として実施した。（昨年度は外部審査委員3名）

コースの金額については、10万円（4団体）・30万円（2団体）として実施したが、申請倍率の偏りが生じてきており、団体のニーズに合わせて金額の再検討（20万円コース・5団体等）が必要である。第8回テーマ型座談会「市内まちづくり活動を支える補助金制度」において、他の資金提供プログラムとの連携の一步を踏み出した。また、市民の寄付とのマッチングファンド方式については、ふるさと納税の財源活用などについて検討を行っていく。

■ 「人」の循環のしくみとしての「まちづくりカフェ」 ～異分野・異業種のネットワーク化～

2014-2016 提案

ねらい	異分野・異業種の人と活動がまざりあう場として、市内の活動を応援する人が増えていく場としての「人」の循環のしくみづくり
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○「見る」から「体験」する、「体験」から「応援・支える」へ 地域の課題を知り、活動を体験し、人に触れるようなパネル展示・ブース出展／寄付体験「まちけつと」をきっかけとした活動を応援する人のコミュニティを育む ○市役所での開催 市役所1階のロビーと2階ギャラリースペースを活かした一体感のあるプログラム実施／他イベントとの同時開催で相乗効果をねらう ○異分野・異業種の団体交流 異分野・異業種の人々が「まざりあう場」、「耕される場」としてのまちカフェ

2015 年度総括

今年度は糸満市健康福祉まつりと合同開催となり、同日開催の糸満市長杯ゲートボール大会、てくてくウォーキング大会と併せて実施することで、より多くの市民への啓発活動の場となった。昨年度は企画委員会を組織したが、今年度は「糸満まちづくりカフェ 2016 実行委員会」が主催となり、まちセンは事務局という位置づけで開催した。実行委員会への各団体の参加や市社協ボランティアセンターとともにボランティアによる参加の仕組みづくりを試みた。出展ブースは昨年度の41ブースから60ブースに増え、寄付体験「まちけつと」では50,416円（まちけつと売上45,500円・現金4,916円）が参加団体及び市共同募金へ資金循環した。

次年度に向けて、「まちカフェ」として定着しつつある当催しを継続的、かつ適正な規模で行うために、関係機関との連携をより強化し取り組んでいく。

1-2. 糸満市をとりまく地域状況と市民活動環境

(1) 糸満市内のNPO法人・市民活動団体の概況

把握できる団体として、糸満市に主たる事務所を置くNPO法人と糸満市社会福祉協議会に登録しているボランティア団体、自治会がある。他にも任意団体や一般社団法人等の公益法人もあるが、特に任意団体の正確な数字を把握することは難しい。

① NPO法人数（2016（平成28）年2月末日現在）

糸満市内 **16** 法人（沖縄県内認証法人数 572 法人）

② 糸満市社会福祉協議会に登録されているボランティア団体（2015年度）

登録団体 **30** 団体

③ 糸満市内の自治会

自治会数 **69** 自治会

(2) 市民活動を支える資金プログラム

糸満市内において、分野を問わず市民の活動を資金面でサポートを行うプログラムは以下の2つがある。

① 糸満市市民提案型まちづくり事業補助金

設置・運営 糸満市企画開発部政策推進課／糸満市市民活動支援センター
30万円コース 2団体、10万円コース 4団体（2015（平成27）年度）

② 赤い羽根共同募金

設置・運営 沖共募糸満市共同募金委員会

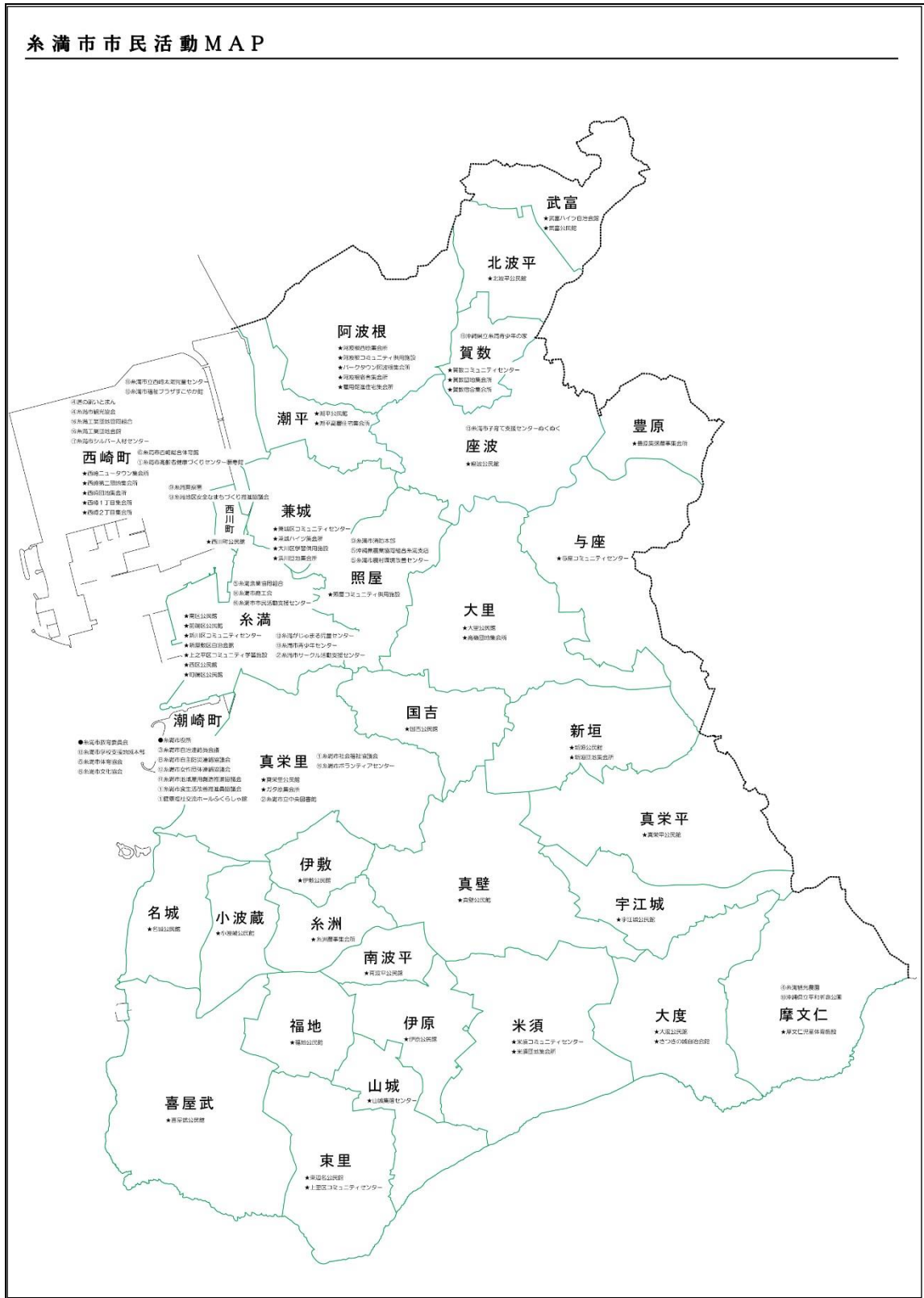
その他、市役所で窓口を設置している資金プログラムとして、以下のものがある。

- 緑の募金／窓口：農政課農政係
- 地域活性化助成事業（公益社団法人 沖縄県対米請求権事業協会）／窓口：政策推進課
- 糸満市地域活性化支援事業補助金／窓口：市民生活環境課

(3) 市民活動を支える中間支援機能を有する機関

糸満市内において、市民活動を支える機能を有する機関は以下の通りである。

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ① 糸満市市民活動支援センター | 市中央公民館) |
| ② 糸満市社会福祉協議会
ボランティアセンター | ④ 糸満市消防本部 |
| ③ 糸満市生涯学習支援センター（元糸満 | ⑤ 糸満警察署 |
| | ⑥ 糸満市商工会 |



エリア別市民活動団の分布

(4) 人口から読み解く地域の現状

①糸満市内の人口の世帯数

人口：**60,135**人 世帯数：**24,558**世帯

2016年 (平成28年)	人口(単位:人)			世帯数 (単位:世帯)
	総人口	男	女	
3月末	60,135	30,271	29,864	24,558

(引用) 糸満市HP

②糸満市内の外国人

外国人登録人口 **169**人 (2011年度人口比0.3%)

(単位:人)

	総数	アメリカ	中国	フィリピン	ペルー	ブラジル	アルゼンチン	その他	無国籍
2011年度	169	22	54	31	-	5	1	56	-

(参考資料) 平成23年版 統計いとまん (市民課資料)

③人口の推移と高齢者率、等

人口は増加を続けるが、15歳~65歳の生産人口は減少に転じていく見込みである。

65歳以上の高齢者率は増加し続け、2020年には高齢者率22%の見込みであり、

高齢者1人を支える生産人口は**2.7**人(2020年)となる見込み。

糸満市	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年
人口計(千人)	50	55	57	59	59
0~14歳	14	12	11	10	9
15~64歳(A) (生産人口)	31	35	37	36	35
65歳~(B) 高齢者率	5 11%	7 14%	9 17%	13 22%	15 26%
A÷B	5.9人	4.7人	3.9人	2.7人	2.2人
75歳~		3	5	6	9

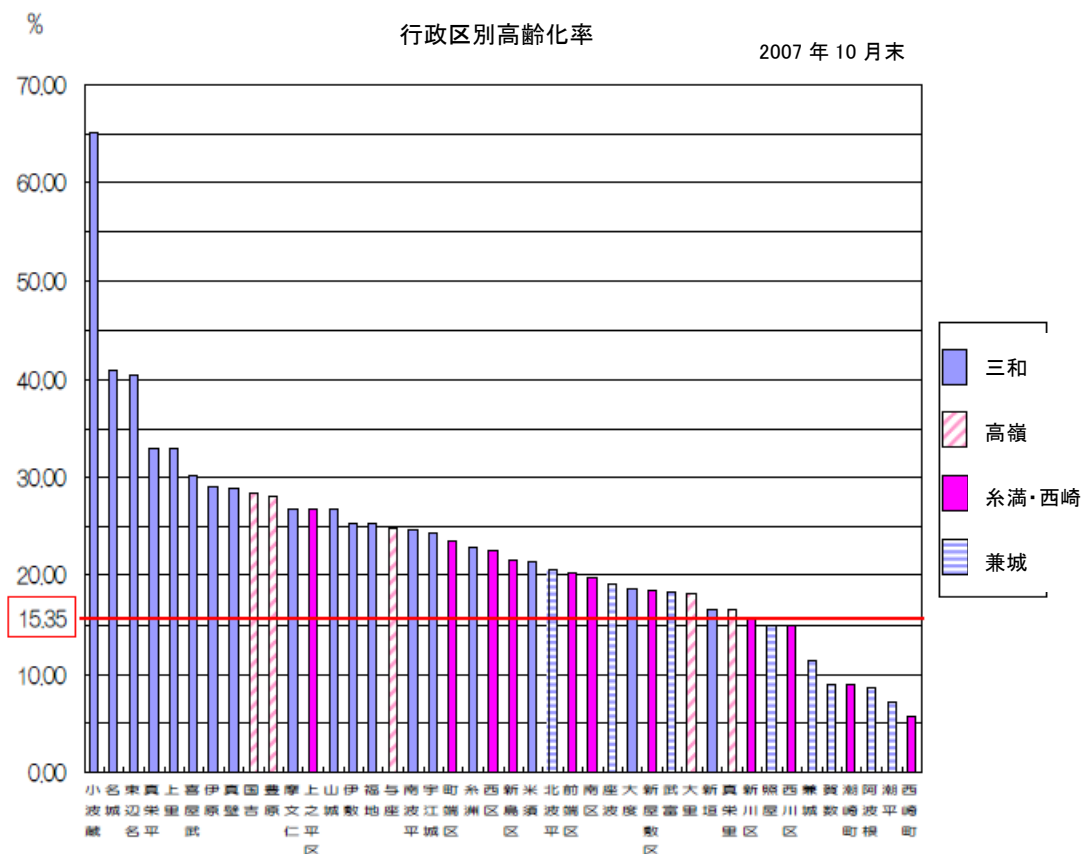
高齢者1人を支える生産人口

(参考資料)

- ・国勢調査：年齢(3区分)、男女別人口及び年齢別割合—都道府県、市町村(昭和55年~平成22年)
- ・日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)/国立社会保障・人口問題研究所
- ・日本の市区町村別将来推計人口(平成15年12月推計)/国立社会保障・人口問題研究所
- ・川北秀人氏(IIHOE代表)研修資料

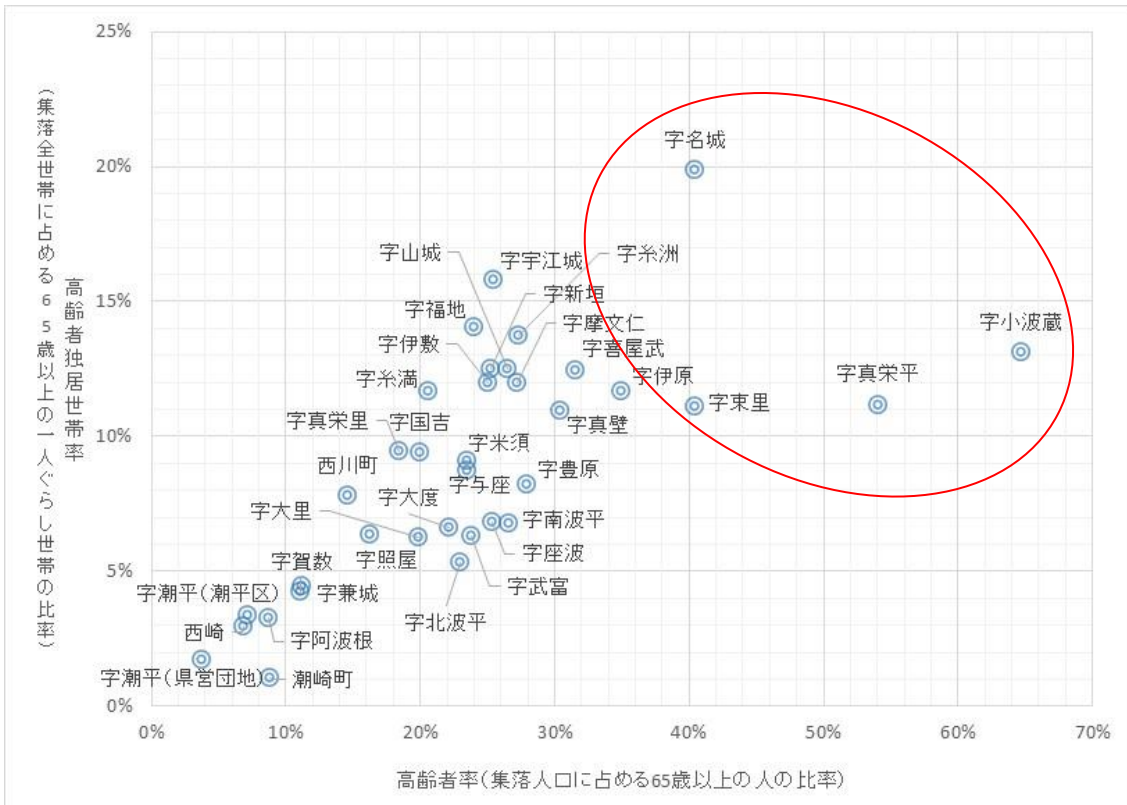
④行政区別にみる地域の現状

行政区 42 のうち **34 行政区** が、市の高齢化率（2007 年（H19 年）：15.35%）を上回っている。



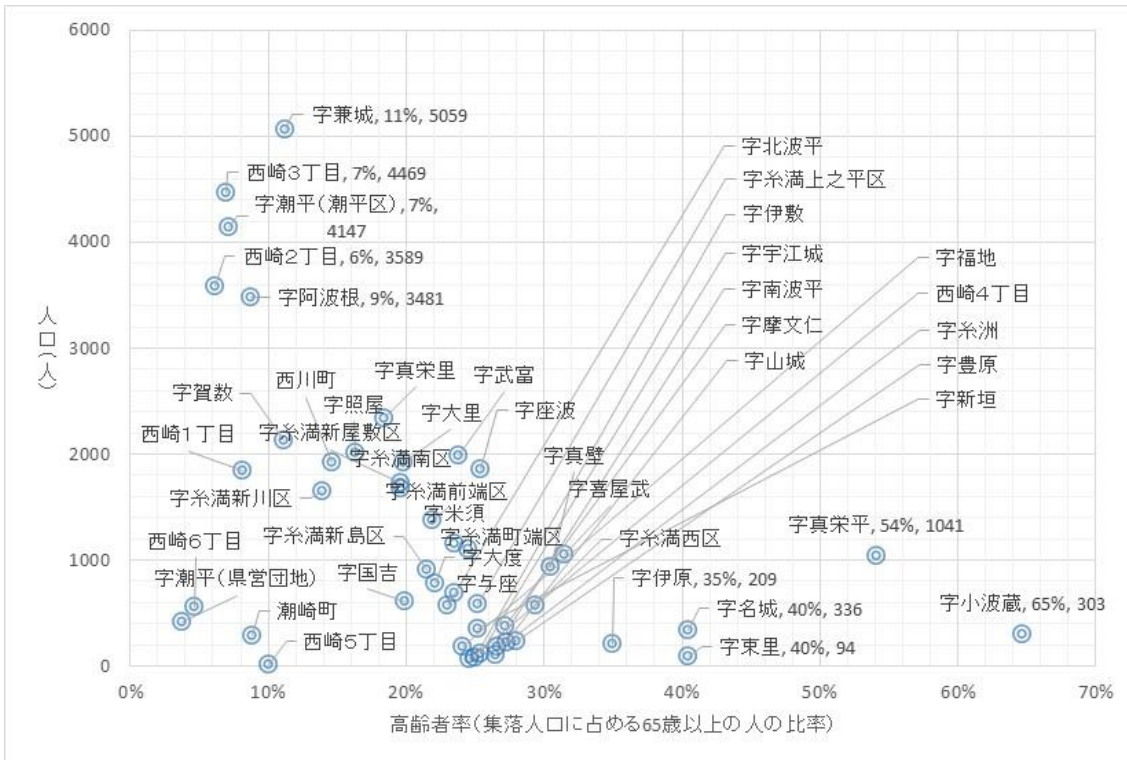
(引用)「糸満市老人福祉計画及び介護保険事業計画」第5期計画より

高齢者率と高齢者独居世帯率における地区分布



※「平成22年国勢調査」データより作成

高齢者率と人口における地区分布



※「平成22年国勢調査」データより作成

1-3. 2015年度 市民活動をとりまく社会環境をふりかえる

(1)内閣府共助社会づくり懇談会「社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ」において報告書が取りまとめらる

平成 25 年度より、地域の絆を活かした共助の活動の推進に必要な政策課題の分析と支援策の検討を行う場として、内閣府経済財政政策担当大臣主催の有識者による「共助社会づくり懇談会」が開催されている。平成 27 年度は、社会的インパクト評価検討ワーキング・グループにおいて、社会的インパクト評価の基本的な概念や普及に向けた課題と対応策について議論が行われ、平成 28 年 3 月に報告書が取りまとめられた。

(参考) 共助社会づくり懇談会 (内閣府)

<https://www.npo-homepage.go.jp/kaigi/kyoujo-shakai>

(2) 意見表明「市民活動団体による活動を不当に制限しようとする動きへの懸念」

さいたま市市議会において、平成 27 年 10 月 16 日、同市の市民活動サポートセンターを「一部の団体が政治的な目的で利用している」ことを理由に、指定管理者による運営を停止し、一時的に市の直営にするとした条例案が可決された。同月 21 日、認定特定非営利活動法人日本 NPO センターより、意見表明「市民活動団体による活動を不当に制限しようとする動きへの懸念」がなされた。

意見表明「市民活動団体による活動を不当に制限しようとする動きへの懸念」～さいたま市議会の市民活動サポートセンターに関する条例案可決を発端として～（一部抜粋）認定特定非営利活動法人日本 NPO センター

さいたま市市民活動サポートセンターにおいて NPO 法人をはじめとする市民活動団体の活動が不当に制限されることのないよう要求するとともに、これが他地域に悪影響を及ぼすことのないよう、各自治体の市民活動推進担当者ならびに議会に対し強く要望します。また、市民活動の関係者が、市民活動団体による政策提言活動に不必要な自粛・自主規制を加えることのないよう念願します。

(参考) 日本 NPO センター <http://www.jnpoc.ne.jp/?p=9138>

(3) 沖縄県が「沖縄県子どもの貧困実態調査」を実施

子どもの貧困対策を効果的に推進するため、沖縄県における子どもの貧困の現状把握や、貧困状態が子どもの生活や成長に与える影響について把握する実態調査を沖縄県子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課が実施した。

平成 27 年度の後半は、新聞等のマスメディアによる子どもの貧困に関する記事も多数発信された。合わせて、地域の子どもたちに食事を提供する「子ども食堂」や学習支援の取り組みも、市民の活動として広がりを見せている。

(参考) 沖縄県子どもの貧困実態調査結果概要について

<http://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/shonenkodomono/kodomonohinkontyousa.html>

第2章 ハイライト

2-1. 数字でふりかえる市民活動支援センターの4ヵ年(2012~2015年度)

①人数

1,586人 ▶ **2,406人** ▶ **3,544人** ▶ **5,098人**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度

※イベント・会議に関わった人数含む(まちカフェは健康福祉まつり実行委員会発表約3,000人に基づきカウント)

②来館者・件数の推移(日平均)

3.3件 ▶ **3.3件** ▶ **3.1件** ▶ **3.9件**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度

※業務総件数
 2015年度 4565/18.6(1日当たり)
 2014年度 4551/17.8
 2013年度 3927/15.4
 2012年度 3203/14

③来館者・件数の総数(年間)

761件 ▶ **837件** ▶ **790件** ▶ **965件**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度

※2012年度 5/10~南小学校跡地より中央市場へ移転
 ※2015年度 7/16~中央市場からふくらしや館へ移転

④相談件数の推移(年間)

155件 ▶ **377件** ▶ **478件** ▶ **462件**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度

※相談件数には、来所相談、電話相談、出先相談を含む

⑤市民提案型まちづくり事業の申請倍率(申請数)

2.3倍 ▶ **2.0倍** ▶ **1.25倍** ▶ **1.75倍**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度
 10万円 10万円 10万円 10万円
 (申請7団体/採択3団体) (申請8団体/採択4団体) (申請5団体/採択4団体) (申請7団体/採択4団体)

5.0倍 ▶ **2.5倍** ▶ **2.0倍** ▶ **4.0倍**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度
 30万円 30万円 30万円 30万円
 (申請5団体/採択1団体) (申請5団体/採択2団体) (申請4団体/採択2団体) (申請8団体/採択2団体)

※2009年度は5団体が申請し、3団体が採択(1.7倍)
 ※2010年度は4団体が申請し、3団体が採択(1.3倍)
 ※2011年度は7団体が申請し、5団体が採択されているが、補助額は団体によって異なる(7万円-19万円)
 ※2012年度より事務局を担う
 ※2013年度は10万円コース3団体→4団体、30万円コース1団体→2団体へ増枠

⑥市民活動パネル展(2012年度)・糸満まちづくりカフェ(2013-2015年度)参加団体

23団体 ▶ **36団体** ▶ **41ブース** ▶ **60ブース**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度

※2014年度以降は合同で参加した団体あり
 ※2015年度は健康福祉まつりと合同開催

⑦ブログ記事数の推移(年間)

289件 ▶ **404件** ▶ **379件** ▶ **378件**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度

※2013年度は前年度に積み残した記事も掲載した
 ※2015年度よりFacebookページを開設

⑧ブログの閲覧数(PV)(日平均)

50PV ▶ **60PV** ▶ **70PV** ▶ **70PV**
 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度

※2012年度の多い日は70-80件、2013年度の多い日は80-90件、2014年度の多い日は100-110件、2015年度多い日は120-140件

2-2. 糸満市市民活動支援センターに関する出来事

(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

期日	事業	主催・所管課	内容
4月7日～	市合同月例ミーティング	市民生活環境課・センター	9月25日、3月25日の臨時ミーティングを含め14回開催
4月14日～	おきなわ市民活動支援会議参加	県内中間支援組織	情報や意見を交換し連携することで、効果的な市民活動支援を行うことを目的とした会議で月1回開催。主に宮道が参加
4月23日	中央市場商店会総会出席ほか	中央市場商店会	(7/15移転まで) 会員として出席。ほか5月24日ちむちむ市場の際はセンターを臨時開館した
4月～5月	NPO法人報告書提出の呼びかけほか	沖縄県県民生活課	市内NPO法人へ相談案内。ほか沖縄県NPOプラザ主催の講座に共催・協力
4月～	糸満市社会福祉協議会評議員会出席ほか	糸満市社会福祉協議会	市内の地域福祉の現状等・情報共有を目的に諮問機関として宮道が出席。ほか沖共募糸満市共同募金委員として2回出席
5月～	農村地域再生発見事業	地域おこし協力隊・大里もりあげ隊	大里もりあげ隊結成し月1定例会、10/18・11/15こども達はインタビュー、11/21-22地域行事写真展開催
5月7日	自治連絡員会議参加 広報紙発行開始	市民生活環境課	2015年度センター事業案内、広報紙配布等のお願い 広報紙「日々是好日」全4回発行
5月16日	市民提案型募集説明会および 2014年度事業報告会	市民生活環境課・センター	説明会後、昨年度交付3団体による事業報告会を実施。説明会当日より市民提案型の申請団体募集開始
6月6日	市民活動講座「(補助金)申請書の書き方を学ぶ」	市民生活環境課・センター	講師は宮道喜一センター長。市外にも対象を拡げて事前告知し、合計31名が参加
6月9日	糸満警察署協議会出席	糸満警察署	市民から意見を聴く諮問機関に上原が委員として出席全4回開催
6月27日	市民提案型まちづくり事業審査会	市民生活環境課・センター	6月24日審査委員会では審査基準等について事前打合せ、当日は15団体の公開プレゼンテーションによる審査を行った
7月9日	市民提案型まちづくり事業交付団体市長表敬・交付説明会	秘書広報課・市民生活環境課・センター	6つの交付団体が各事業の説明、上原裕常市長より激励の言葉を頂く。その後交付説明会開催
7月16日	ふくらしや館移転オープン	市民生活環境課・センター	7/14-15移転作業。7/28ふくらしや館利用団体MT開催。市外NPOを子育て広場につなぎ10/16たいようのえくぼWSへ協力
7月17日	糸満情報交流会出席	糸満自治会長会	市在の各団体が情報交換し親睦を深めることで糸満全体の活性化につなげることを目的とした会にセンター3名出席
8月1日	市民活動講座「会計の基礎を学ぶ」	市民生活環境課・センター	緑間優税理士事務所より講師を迎え開催。市内外より個人含め25団体41名参加
9月8日	社協関係機関施設団体連絡会出席ほか	糸満市社会福祉協議会	年2回上原が出席。ほか1月24日ボランティア団体連絡協議会新年講演会に上原が出席しセンター事業の紹介を行った
9月30日	なんじょう地域デザインセンターほか視察受入	センター	センター事業概要ヒアリング。ほか10月21日中部社会福祉連絡協議会、3月11日豊見城市協働のまち推進課の受入をした
10月21日	福島市議会ほか視察対応	議会事務局	市民生活環境課2名とセンター上原が対応した。ほか1月14日香川県三豊市議会への対応
11月10日～13日	西崎中学校職場体験受入	市民生活環境課・センター	西崎中学校2年生女子2名が、市内まちづくりの取り組みを取材し発信作業などを体験した
12月8日～	まちづくりカフェ実行委員会ほか	まちづくりカフェ実行委員会	実行委員会4回開催。ステージMTとボラセン合同でボランティアMT、12/9募集説明会と1/13参加説明会を開催
12月22日	市長と民生委員語る会参加	社会福祉部・市民生活環境課	上原がオブザーブ参加。市長はじめ市内利害関係者が集い課題や取り組みについて共有した
1月20日	第7回テーマ型座談会	地域おこし協力隊・市民生活環境課	自治連絡員会議後「地域活動と継承」について県自治会連絡会会長新田宗信氏より論点提供、グループワークを実施
2月14日	第23回健康福祉まつりwith糸満まちづくりカフェ2016	健康福祉まつり・まちづくりカフェ実行委員会	健康福祉まつり合同、2/8-12庁舎1階でPR週間実施。市長杯ゲートボール大会・てくてくウォーキング大会同日開催
2月21日	沖縄、ふるさと百選受賞報告会・楽しもう!うふざとう交流会	大里もりあげ隊・地域おこし協力隊	吉本哲郎氏を招聘し「地元学の先進事例」について講演後、「沖縄、ふるさと百選(集落部門)」の受賞報告会を開催
3月25日	第8回テーマ型座談会	市民生活環境課・センター	「市内まちづくり活動を支える補助金制度」をテーマに社協、農政課、政策推進課、市民生活環境課と情報共有した

2-3. 市民活動支援センター 事業トピックス

(1) 糸満市市民提案型まちづくり事業の企画推進

【ねらい】

市民団体及びグループ等が、自主的、主体的に企画実施するまちづくり事業に対し、予算の範囲内で事業の経費の一部を補助することによって、持続的な取り組みを実現していくことを目的とする。

○概 要

今年度で7年目となる本事業の事務局として、所管課とともに交付要綱・募集要項の見直しをはじめ、募集・審査・取材広報・報告と一連の業務を行った。

① 募集期間

2015年5月16日(土)～6月16日(火)

② 募集説明会・2014年度事業報告会の開催

2015年5月16日(土) 14:00～15:30 ふくらしや館多目的ホール

③ 申請書書き方講座の開催

※申請書書き方講座の詳細は後頁

2015年6月6日(土) 14:00～16:00 ふくらしや館多目的ホール

④ 審査

審査員による事業計画書等の応募書類とプレゼンテーションによる審査を行った。

2015年6月27日(土) 10:00～16:00 ふくらしや館多目的ホール

申 請：10万円コース 7団体(交付4団体) 申請倍率1.75倍

30万円コース 8団体(交付2団体) 申請倍率4.00倍

委 員：5名

岩田 直子 (沖縄国際大学総合文化学部人間福祉学科教授)

仲間 栄太 (糸満市社会福祉協議会地域福祉推進係主事(共同募金担当))

儀間 小夜子 (NPO法人こども医療支援わらびの会理事・事務局長)

上原 一志 (糸満市商工会事務局長)

野原 哲 (糸満市役所市民健康部部長)

⑤ 交付団体と事業名

10万円コース

糸満市食生活改善推進員協議会「親子で学ぶ朝ごはん」

報得川タマン祭り実行委員会 「報得川タマン祭り」

いとまんシネマクラブ 「映画観賞会を通して市民交流事業」

パフォーマンズ・サークルきらきら

「レリゴー！糸満ふるさとミュージカルを創ろう！」

30万円コース

ちむちむ市場実行委員会 「ちむちむ市場～心と心が繋がる自由市～」
 糸満旗頭振興会 「旗頭による地域活性化及び青少年健全育成事業」

⑥ 交付説明会

2015年7月9日(木) 10:45～11:30 市役所3-a会議室

内 容：事業開始から実績報告までの流れ

領収書等の補助金執行管理、活動記録シートの活用について他

⑦ 会計講座

※会計講座の詳細は後頁

2015年8月1日(土) 14:00～16:00 ふくらしや館多目的ホール

⑧ センター広報紙「日々是好日」で交付決定事業の紹介

※情報発信の詳細は後頁

Vol.17 交付団体と事業内容、審査総評・審査項目、市長表敬の様子を掲載

Vol.18 各事業の活動レポートの掲載

Vol.19 各事業の活動報告、収支報告の掲載

⑨ 第23回糸満市健康福祉まつり with 糸満まちづくりカフェ 2016 にブース参加

日 時：2016年2月14日(日) 10:00～16:00

※まちづくりカフェの詳細は後頁

会 場：市役所1階市民ホール・アマハジ・2階屋外展示ギャラリー・ふくらしや館

内 容：事業を提案した理由、経過、現時点での成果、今後の展開



審査会公開プレゼンテーション



交付説明会

～ 交付団体の声 ～

- 新規事業にかける想いを伝えられたので良かったです
- 質疑応答を通して自分たちの事業の課題や良さを再確認できたので良かった
- 倍率の偏りが気になりました
- もっと枠を増やしてほしい
- もっと多くの市民、いろんな層に意識づけるようなPRが必要かと思う
- 市民目線で活動していく団体をもっと盛んになるよう当事業を継続して欲しいです

(2)-1 市民活動講座(補助金申請書書き方)の開催

【ねらい】

市民活動を活発にするための手段として補助金制度の活用があることを知り、受けたい補助金事業の要項を読み込み理解し、審査員に企画や活動内容が伝わる申請書の書き方がわかる。

○概要

糸満市の市民活動団体の多くはボランティアベースで、活動資金を自己負担する団体が多く、活動の幅が広がらない要因ともなっている。また市民活動に活用出来る補助金制度を知ってはいても申請書の書き方が分からない、難しい、面倒であるといった声があり、なかなか申請に踏み込めない団体も多い。

市民提案型まちづくり事業募集要項をもとに、補助金の本質を理解することで申請にチャレンジしやすくなるように書き方講座を開催した。

テーマ：申請書の書き方を学ぶ～補助金の活かし方を理解して「思い」を伝えよう～

日時：2015年6月6日(土) 14:00～16:00

会場：糸満市ふくらしや館多目的ホール

講師：宮道喜一（市民活動支援センター長）

参加：30名（非営利法人、任意団体、自治会、企業、行政）



～ 講座受講者の声 ～

- ・申請書に必要な事柄や審査員の立場に立ったプレゼンなど、具体的な方法を聞いて大変勉強になった
- ・来るまでは不明確だった事業の内容が、参加した事で明確になりました。内容・進行も分かり易かった
- ・補助金は自分には関係のないものだと思っていたが、身近なものだと分かった。参加した人の話や思いを聞いて、とても勉強になった

(2)-2 市民活動講座(会計)の開催

【ねらい】

日常の基礎的な会計処理の方法を身に付け、団体の活動がわかる決算書作成の方法や
 税務処理が出来るよう会計税務の基礎がわかる。

○概 要

糸満市の市民活動団体の多くはボランティアを中心とした団体であり、団体の管理運営
 まで時間や労力を割くことが困難な状況である。また、法人化している団体であっても資
 格を持たないスタッフが会計業務にあたるのが現状で、決算書作成に戸惑うことが多い。

そこで、日常の基礎的な会計処理の方法を身に付け、演習を通して毎日の会計から決算
 までの流れを理解するための会計講座を開催した。市民提案型まちづくり事業交付団体に
 は、昨年度に引き続き本講座への参加を義務付けた。

テーマ：会計の基礎を学ぶ～毎日の会計と決算～

日 時：糸満市ふくらしや館多目的ホール

会 場：2015年8月1日(土) 14:00～16:00

講 師：緑間優氏（緑間優税理士事務所）

参 加：計41名（市民提案型まちづくり事業交付団体、非営利法人や組合、任意団体、
 自治会、学校、企業、行政、個人）



～ 講座受講者の声 ～

- ・基礎の部分から（用語の解説等）教えてもらい、初心者でも分かり易かったです。引き続き開講してほしい
- ・練習問題の時間をもっと取れたらと思った。2時間では足りなかった
- ・説明はとてもわかり易かったが、もう少し深い（決算書まで）内容まで学びたかった
- ・通知カード（マイナンバー）の意味が少し分かりました

(3)まちづくりカフェの開催

【ねらい】

各団体の活動を取り上げることで、地域で実践されている協働と市民活動に対する理解と関心を深めるとともに、市民と団体、団体同士の交流や情報交換を促し、地域のつながりづくりに寄与することを目的に実施する。

○概要

各団体が取り組むまちづくり活動を来場者に見て体験してもらうことで、地域で実践されている協働と市民活動・地域活動・ボランティア活動に対する理解と関心を深める場とし、今年度は糸満市健康福祉まつりと合同開催した。また同日開催の糸満市長杯ゲートボール大会、てくてくウォーキング大会と併せて実施することで、より多くの市民が足を運び効果的な啓発活動の場となった。

2013年度より引き続き、実行委員会内で議論された寄付体験の検証の場として、市民の寄付に対する理解と関心を深め、団体においては資金造成の機会にもなった。さらに今年度はボランティアセンターとともにボランティアの仕組みづくりを試みた。

名 称：第23回糸満市健康福祉まつり with 糸満まちづくりカフェ 2016

日 時：2016年2月14日(日) 10:00～16:00

※PR週間：2月8日(月)～12日(金) 参加：23団体

場 所：糸満市役所1階市民ホール・アマハジ

・2階屋外展示ギャラリー・ふくらしゃ館

主 催：第23回糸満市健康福祉まつり実行委員会

糸満まちづくりカフェ 2016 実行委員会

後 援：糸満市、糸満市教育委員会、糸満市消防本部、糸満市議会、糸満市社会福祉協議会、糸満警察署、糸満市商工会、南部福祉保健所

同日開催：糸満市長杯ゲートボール大会、糸満市てくてくウォーキング大会



1階市民ホールの様子



2階屋外展示ギャラリーの様子

参加および入場：無料

但し、イベント会場においての寄付は専用チケット「まちけつと」を使用

寄付総額：50,416円（まちけつと売上45,500円・現金4,916円）

内13,839円を糸満市共同募金委員会へ寄付

※資源循環研究会の詳細は後頁

入 場：3,000名（健康福祉まつり実行委員会事務局発表）

参 加：8エリア／60ブース／3ステージ（順不同）

美容矯正院サンテドボーテ ジェイスタイル、ライフオーガナイザー沖縄、カーブス糸満、わだや健康食事宅配サービス、糸満市食生活改善推進員協議会、糸満市国民健康保険課、社会医療法人友愛会南部病院、医療法人陽和会南山病院、豊平はり・きゅう・マッサージ、南部地区薬剤師協会、糸満市健康推進課、糸満市健康推進課（ふくらしや館）、糸満市社会福祉協議会、糸満市ボランティア団体連絡協議会、糸満市赤十字奉仕団、アイレンジャーズ、障害者支援施設ソフィア、社会福祉法人志紋福社会障害者支援施設みなみの里、糸満市障害者生活支援センター陽だまり、介護老人保健施設サクラビア、介護老人保健施設白寿園、沖縄偕生園、公益社団法人糸満市シルバー人材センター、糸満市介護長寿課、糸満市児童家庭課、ひまわりファクトリーBon・Bon、医療法人陽和会ワークライフサポート南山、NPO法人障がい者支援センターぴゅあ、糸満ワークエンジョイプロジェクト、糸満市くらしのサポートセンターきづき、沖縄県立沖縄水産高校 福祉サービス系列、沖縄県立沖縄水産高校福祉サービス系列×(株)佐喜眞義肢、ジョン万次郎上陸之地記念碑建立期成会、いとまんシネマクラブ×シネマラボ突貫小僧、紅短歌会+すみれ歌会、パフォーマンス・サークルきらきら、レイロケラニフラスタジオ、糸満旗頭振興会、糸満海人大学×ハマスーキ、LineRiseProject×おはなしの国マイカニヤ×リバースザワールド、NSSB、西崎中学校吹奏楽部、糸満市教育委員会社会体育課×沖縄健康づくり協会ダブルピース、糸満市自主防災組織連絡協議会、糸満市消防団、南部保護司会糸満支部、糸満地区交通安全協会、報得川タマン祭り実行委員会、エコールママステーション糸満支部、糸満市市民課、糸満市観光協会民泊事業、ちむちむ市場実行委員会、ファーマーズマーケットいとまんうまんちゅ市場、沖縄水産高等学校海洋技術科、網走市友好都市交流事業、大里もりあげ隊×地域おこし協力隊、真栄里チャレンジ会、糸満市子ども会育成連絡協議会×SMBC コンシューマーファイナンス(株)、豊原自治会×金城正光民謡研究所、糸満市ボランティアセンター×糸満市市民活動支援センター、潮平太鼓きじむなー（ステージ特別枠）

ボランティア：27名

沖縄尚学高校、スペースキッズ沖縄、要約筆記サークルいちまんかたつむりの会および個人



募集説明会



実行委員会

～ 来場者の声 ～

- 糸満市の活動が見え、魅力が伝わった
- 地域でがんばっている皆さんが市民へ活動を披露してくれたのが良かった
- 色々な団体の出店や出し物があって、みんなで作っている感じがよかった
- てくてくウォーキング終了後食べ物が残ってなかった
- お金を直接動かすのではなく、チケットによって寄付をするのがやりやすいと思う

～ 参加団体の声 ～

- 市役所を市民に開放することに非常に良いと思います。駐車場がいっぱいで良い
- 一般へのPRが遅く感じた。ボランティアの手伝いがとても助かった
- 複数のイベントを組み合わせることで集客力が上がるので良いと思う
- 寄付BOXはもっと大きく、まちけつとを入れる口の大きさも考慮してほしい
- 最初からお金の投入も良いと思う

～ ボランティアの声 ～

- 地域団体の取り組みを学ぶ良い機会になった
- 拘束時間の長さや団体の把握等、参加のハードルが高いと感じた。午前、午後、片づけのみなど、内容や時間を限定する、地元小中学校の総合学習の枠で参加してもらおう等ができたらいいなあと思った

(4)-1 テーマ型座談会(いとまんの元気座談会)の開催

【ねらい】

自治会活動の実践者より、地域を豊かにする「自治会活動と継承」について話を聞きながら、参加者全体で糸満市を支える自治会活動について考える。

○概 要

糸満市ではつながりの豊かなまちを目指す中で、協働の理念に基づいた地域コミュニティの再生を目指す取り組みや集落の自立的発展を促す取り組みを進めている。

その一環で地域おこし協力隊が市内各地域に入り込み、地域活動の現状や課題をヒアリングしてきた。その内容を踏まえて自治会活動の実践者より情報提供してもらい、自治連絡員を中心とした参加者ととも糸満市を支える自治会活動について話し合った。

※農村地域再生発見事業の詳細は後頁

テーマ：いとまんの元気座談会～「地域活動と継承」について考える～

日 時：2016年1月20日(水) 15:00～17:00 (自治連絡員会議後)

会 場：糸満市ふくらしや館多目的ホール

ゲスト：新田宗信氏

(沖縄県自治会連絡会会長・西原町平園自治会会長・西原町自治会長会会長)

コーディネーター：地域おこし協力隊

参加者：25名 (非営利法人・任意団体・自治会・行政・企業)

内 容：西原町平園自治会を拠点に自治会活動を行っている新田宗信より先駆的な事例などを聞いて、地域を豊かにする「自治会活動と継承」について考え、参加者全員で話し合う



～ 参加者の声 ～

- ・「地域づくりは皆で取り組むもの」という言葉に励まされた。しかし、きっかけをつくるのは自分自身(役員)。一歩踏み出さなければ何も始まらないと再認識した
- ・自分の地域について新田さんに話を聞いてもらい、意見等を伺ってみたいと思った

(4)-2 テーマ型座談会(市内まちづくり活動を支える補助金制度)の開催

【ねらい】

糸満市および糸満市社会福祉協議会ははじめ、県内に事務局が設置されている補助金事業についての情報と課題について共有する。

○概要

糸満市内の団体の活動をより活発にするためには、手段のひとつに補助金制度があることを知ってもらい、市民がチャレンジしやすい環境を整える必要がある。

糸満市内で補助金事業の窓口となっている機関の担当者に集まってもらい、情報と課題について共有した。

テーマ：市内まちづくり活動を支援する補助金制度

日時：2016年3月25日(金) 14:00～15:00

会場：糸満市役所2階市民ギャラリー

着席者：仲間 栄太（糸満市社会福祉協議会共募担当）、照屋 睦昌（糸満市農政課農政係）、屋富祖 淳一（糸満市政策推進課対米請求権事業担当）、我那覇 拓己（糸満市市民生活環境課自治会担当）、上原 千加子（糸満市市民活動支援センター市民提案型まちづくり事業担当）

コーディネーター：糸満市市民活動支援センター



～ 参加者の声 ～

- ・毎回、募集の周知不足が課題となり、必要な団体に必要な情報が届いているのかと
思っていた。情報を分かりやすくまとめて発信して欲しい
- ・年度末の忙しい時期ではあるが、欲しい情報が手に入ってよかった。早速、次年度
は自分たちの法人のためにその補助金を活用したい

(5)-1 市民活動相談

【ねらい】

市民活動団体や市民活動に興味を持つ個人が、活動をする上での困りごとや疑問を気軽に相談解決出来るような環境をつくる。

○概 要

今年度7月に中央市場から市役所水道部2階ふくらしゃ館へ移転した。それに伴い、市役所来庁の際にセンターへ来所する利用者が多くなり、行政職員の相談も増加した。分野も多岐にわたり専門的知識が必要な内容も多くなってきたが、センターで完結させるのではなく、この機会を活かし協働へとつなげていった。

- ・ 対応数：のべ462件
- ・ 内 容：市民提案型まちづくり事業補助金111件、
 広報51件、団体・スペース・イベント
 情報コーディネート109件、
 組織運営(会議運営・会計税務含む)5件、
 助成金情報1件、事業イベント運営119件、
 NPO等法人設立19件、
 その他(制度化・ビジネス化)47件

日 時：原則として事前予約の上、実施



糸満市役所ふくらしゃ館へ移転

考察1) 市民提案型まちづくり事業関連

昨年度に引き続き、市民提案型まちづくり事業に関して申請書類の整え方やプレゼンテーションの方法、交付団体の概算請求、報告書作成など、各団体より多数の継続的な相談が持ち込まれ対応した。これらの相談を通して団体の抱える課題を把握出来た。

考察2) 相談から自治会結成へ

市民提案型まちづくり事業申請に関する相談から地域課題やニーズを知ることもあった。長期に亘って自治会設立の準備をしていた地域がついに結成。初の事例となった。

考察3) 相談から協働へ

センターが認知されるにつれて専門分野や市民活動以外の相談も増え、内容によっては対応可能な然るべき機関につなぐなど、相互連携し課題の解決に努めた。さらに対応の精度を上げるために、情報を整理し共有する仕組みが必要である。

(5)-2 専門家による相談

【ねらい】

各団体の困りごとに、個別対応が可能な専門家による相談ニーズの把握と専門家とのネットワークをつくる。

○概要

NPO の会計・税務・労務について対応可能な専門家は市内にまだ見当たらないが、福祉系の年間事業規模 3000 万円を越す団体については、既に税理士等の専門家と顧問契約を結べており、直接相談できる先を確保出来ている。

しかし、年間事業規模 300 万円～1000 万円程度にある団体は、会計・税務について個別相談する先を持たず困難を抱えている状況である。これらを踏まえ消費税課税団体でかつ契約税理士を持たない団体中心に声をかけ、当初、会計講座終了後に相談会を予定した。

【相談会】

8 月 1 日開催の会計講座に合わせて、市内 NPO 法人または法人化を目指す団体に対し税理士による相談会の案内を試みたが、同時期に市内需要はなかったため開催しなかった。

【個別対応】

児童クラブを運営する市外団体より、会計基準の運用等について相談があり、NPO 会計税務専門家ネットワークメンバーである大城逸子氏へつないだ。

考察 1) 事務の領域と団体の悩み

会計は日常ルールの設定や NPO 法人会計基準等について、税務は消費税課税団体の境界対や消費税増税対応、法務は変更登記等の悩みがある。他にも指定管理受託に伴い事務上混乱が生じる場合もある。労務については今のところ差し迫った悩みは見えない。

考察 2) アプローチ方針

センター窓口では、いとまんページやブログ Q&A での情報提供を行い、必要に応じて相応しい専門家の紹介等を行う。要望の多い会計については市民提案型まちづくり事業のスタート講座として実施、さらには NPO プラザ主催の講座等につなげる。

考察 3) 専門家による個別相談のこれから

NPO 法人向けの個別相談ニーズは見えにくい状態だが、有料でも相談会を希望する声もあり、引き続き料金や時期、募集の方法を検討していく。他のアプローチとして、企業の経理担当者やデザイナーなどの専門知識を団体運営に活かす方法も検討したい。

(6)市民活動の見える化・情報発信**【ねらい】**

糸満市内で活動する団体や市民活動に関する情報をわかりやすい形で提供し、いつでも市民が活動へ参加したり、地域の課題解決に取り組めるように市民活動の見える化に努める。

(6)-1 広報紙「日々是好日」の発行

○概 要

3ヶ月に一度、糸満市内の市民活動状況をはじめ、特に2015年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体の事業を紹介した。

発 行：Vol.16（6月発行）

Vol.17（9月発行）

Vol.18（12月発行）

Vol.19（3月発行）

配 布：各号初回600部

**□Vol.16 7/16(木)糸満市ふくらしや館移転オープンします！！**

- 1 ページ 糸満市ふくらしや館移転オープンします！！
- 2 ページ ・団体紹介：糸満市不登校・引きこもりサポートの会
・2015年度スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.17 自分のまちをよりよくするアイデアあります！

- 1 ページ 6団体そろって市長を表敬
- 2・3 ページ 2015年度糸満市市民提案型まちづくり補助金交付団体決まる！
- 4 ページ 団体紹介：うどらい福楽
2015年度まちセン*スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.18 有志が大里をさらに盛り上げます！「大里もりあげ隊」結成！

- 1 ページ ・大里もりあげ隊の全世代交流に向けた魅力を掘り下げる5つの視点
・大里もりあげ隊の活動は人材育成・資源活用・実態調査で動き出しています
- 2・3 ページ 2015年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体レポート！
- 4 ページ 団体紹介：アイレンジャーズ
2015年度まちセン*スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.19 糸満市市民活動支援センター地域課題への関わり方	
1 ページ	糸満市市民活動支援センター地域課題への関わり方
2・3 ページ	2015 年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体報告！
4～9 ページ	第 23 回糸満市健康福祉まつり with 糸満まちづくりカフェ 2016
10 ページ	2015 年度センター事業報告、まちづくり活動の情報発信にご活用ください！

(6)-2 ブログで情報発信

○概 要

糸満市内で活動する団体の多くは独自で情報発信するツールを持たず、またその活動を紹介する媒体も少なく情報が得にくい。また市民活動に取り組む際、地域に特化した情報が整理されておらず、必要な情報を入手するのが困難である。記事を掲載する際はブログの検索機能を活用し、情報を引き出しやすいよう工夫した。

URL : itomansaposen.ti-da.net

更新日 : 毎開館日

記事数 : 年間 378 件

閲覧数 : 日平均約 70 件 (多い時で 120~140 件)

インフォメーション : 利用案内、まちセンからお知らせとお願い、2015 事業、2015 スケジュール、関係機関リンク、市内団体リンク

記事カテゴリ :

まちセン概要、まちセン事業報告書、市民活動相談、市民活動講座、テーマ型座談会、市民提案まちづくり事業、地域再生発見事業、糸満まちづくりカフェ、i いとまんページ、広報紙「日々是好日」、資源循環研究会、2012 センター事業、2011 センター事業、市民活動 20 の分野、条例で定める活動、市民活動 Q&A、市民活動イベント情報、市民活動スペース情報、補助金・助成金情報、糸満市ふくらしや館、糸満市中央市場周辺、視察・研修、その他



(6)-3 Facebook で情報発信

○概要

今年度6月5日より運営。ブログだけでは網羅しきれない個人等に向け情報を発信するとともに、Facebook を利用する団体の情報を収集した。

URL : <https://www.facebook.com/itomansaposen/>
ページいいね!数:91 いいね!

インフォメーション : まちセンからのお知らせとお願い、
関係機関リンク、市内団体リンク、
まちセンブログ記事へのリンクなど



(6)-4 市民活動便利帳「いとまんページ」の作成

【ねらい】

市内の市民活動に関する基本的な情報を取りまとめて便利帳を作成し関係機関が活用することによって、市民の問い合わせに対しどの窓口でもその場で等しく情報が得られる環境を目指す。

○概要

2012年度の第1回テーマ型座談会において、市内の市民活動支援機関でさえ、それぞれが把握している情報を共有出来ていないことが明確になった。便利帳の作成と活用を通し市内関係機関とのネットワークを築き、ともに糸満市内の市民活動の「見える化」に取り組む。情報収集を通して団体の活動内容が見え、当センターのことを知ってもらう機会となっている。

○進捗状況 (2016年3月時点)

- ・センター内団体情報ファイルから掲載団体整理
- ・いとまんページサイト作成中 (無料ホームページ作成サイト Wix を使用)



(7)資源循環研究会

【ねらい】

2011 年度に資源循環について議論し、提案した内容を踏まえた実験的実践を行ない、持続的なしくみづくりへの方向性を示す。

○概 要

2011 年度に①小さいチャレンジを促し耕し支える仕組みづくり②地域で資源をまわし、つながりをつくる③既存イベントや仕組みを活用し、異分野・異業種コラボレーションを生み出すことを提示した。2013-2014 年度にはまちづくりカフェにおいて、①まちけつとによる寄付体験②フードドライブ③ノウハウや情報の循環への取り組みを検証し、イベント自体が糸満市の資源循環のしくみとなることを目指した。

今年度のまちづくりカフェでは、まちけつと（金的資源）を寄付に特化し引き続き検証を、さらにはボランティアセンターとともにボランティアコーディネートを行い、市内人的資源循環の仕組みづくりのきっかけとした。またテーマ型座談会において、糸満市内で補助金事業の窓口となっている機関の担当者を集ってもらい、市内まちづくり活動を支える資金提供プログラムの情報共有と連携を図った。

上京の機会をとらえ、所管課である市民生活環境課とともに東京都調布市市民活動支援センターを訪問し、マッチングファンド事業の立ち上げ経緯や運営上の成果と課題についてヒアリングを行った。

※まちづくりカフェおよびテーマ型座談会の詳細は先頁

提案1) まちカフェ自体を多様な資源循環の場へ

まちづくりカフェは、年1回の「資金」「人材」「情報」「活動」等の資源循環の場として定着させていくことを目指す。市民の「共感」を軸として、「体験」「選択」「双方向」をキーワードに展開していく。

提案2) 資金循環のイメージ～市民提案型まちづくり事業補助金とマッチングファンド

行政からの補助金だけでなく、市民からの寄付をあわせたマッチングファンドの仕組みを検討していく。

(参考) えんがわファンド（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）

調布市内で行われる、福祉・環境・国際協力・文化といった幅広い分野の市民活動や、児童生徒の体験活動を支援するため、平成 18 年度につくられた助成金プログラム。平成 27 年度までの 10 年間で延べ 149 団体へ 860 万 1695 円の助成を行いました。

(8)農村地域再生発見事業**【ねらい】**

地域コミュニティの再生を目指すとともに、集落の自立的発展を促し、地域のつながりを深めながら、地域伝統に根付く住み良い元気なまちづくりを図る。

前例である米須地区と新しい地区を基盤とし、自立的なむらづくり活動のモデルとして他の集落へ波及を目指す。

○概要

モデル地区最後の年となる 2015 年度は、有志で結成した大里もりあげ隊を中心に下記について取り組んだ。また、自治連絡員を中心にいとまんの元気座談会を開催した。

※テーマ型座談会の詳細は前頁

①大里もりあげ隊定例会の開催

日 時：毎週第3金曜日（3月末までに11回開催）

場 所：大里公民館

②子ども達はインタビュアーの開催

日 時：2015年10月18日(土)14:00～16:00 参加8名(大人5名、子ども3名)

2015年11月15日(土)9:00～15:00 参加20名(大人7名、子ども13名)

場 所：大里公民館

③大里もりあげ隊地域行事写真展の開催

日 時：2015年11月21日(土)14:00～18:00

～ 22日(日)9:00～15:00

場 所：大里公民館

来場者：86名

内 容：綱引き及び青年エイサーの写真を展示

**④「沖縄、ふるさと百選」受賞報告会&楽しもう！うふざとう交流会**

日 時：2016年2月21日(日)

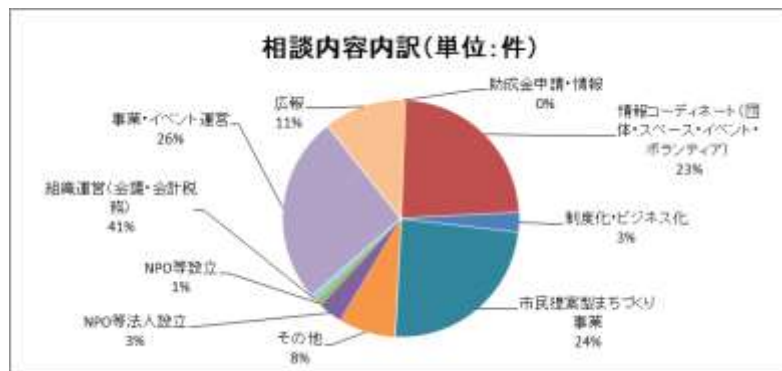
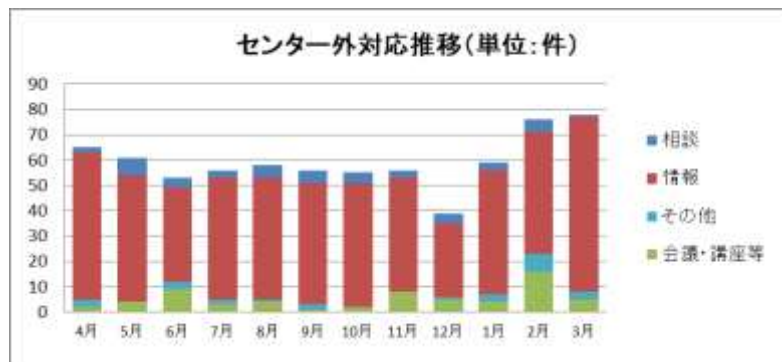
場 所：大里公民館

来場者：38名、スタッフ4名

講 師：吉本哲郎氏（地元学ネットワーク主宰）

内 容：3年間大里で実施してきた活動内容の発表と、大里もりあげ隊が吉本さんへ要望した「地元学の先進事例」を講演会形式で行った。また2月に受賞した「沖縄、ふるさと百選（集落部門）」の受賞報告会を行った。

2-4. 利用実態



○考 察

中央市場建て替えを前にセンターで使用していたクーラーが故障したことから、7月16日に糸満市中央市場から糸満市役所ふくらしゃ館へ移転をした。これによって、これまで市民活動とは縁のない市民が市役所来庁の際に訪れるなど来所者層にも変化があった。

また、駐車場等の利便性からか来所者数も増加した。さらには、ふくらしゃ館施設を利用する子育て支援室やいきいき健康クラブの職員がセンターについて認識を深め、市職員が来所する機会が増えた。

年度前半は市民提案型まちづくり事業に関する内容が大半を占めた。事務局として4年目を迎えた今年度は15団体の応募があった。昨年度同様、公開プレゼンテーションを行ったところ、互いの活動を知ることで合同での取り組みに発展するケースも出てきた。今後も団体の声に耳を傾けながら着実に開かれた審査会へとつなげていく。

また、この事業に紐付けて、今年度も申請書書き方講座と会計講座を開催した。申請書書き方講座については、今年度で3回目となり回を重ねるごとにブラッシュアップされ、受講者の満足度も高くなっている。市外受講者からは、会計講座ともに市外にも開かれた有益な講座として評価を頂いた。

大里地区をモデルにした農村地域再生発見事業は最終年度を迎え、自治会から独立した任意団体として大里もりあげ隊が結成された。月1回の定例会を行いながら、今後の方向性を見出していった。ともに取り組んできた地域おこし協力隊も任期を終えた。

年度後半は、健康福祉まつりとの合同開催となったまちづくりカフェに係る業務が圧倒的に多く、参加団体の出展内容に関する相談や実行委員会等のミーティング、情報の収集や提供などに時間を割いた。団体や活動がつながることで協働の取り組みが生まれることが期待される。

今後、ますますセンター利用者は増えてくると考えられ、それに伴い人手が足りなくなってくる。業務のバランスを考え時間の使い方を工夫し対応していくが、併せて人員増についても要望していきたい。



2-5. フォトギャラリー2015

4月 所管課と年度初市合同MT



7月 まちぐるーを後に引っ越し



7月 市民提案型まちづくり事業交付団体による市長表敬



6月 市民提案型まちづくり事業 審査委員



7月 ふくらしゃ館利用団体で情報交換



9月 市民提案型交付団体取材



11月 西崎中学校職場体験



2月 第23回健康福祉まつり with 糸満まちづくりカフェ 2016



2月 受賞報告会&うふざとう交流会



市民活動支援センターからの景色



第3章 収支概要

3. 2015年度 糸満市市民活動支援センター収支計算書

(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

	経費区分	経費	内訳
	【経常収入】		
委託料		8,396,000	
	経常収入 計	8,396,000	
	【経常支出】		
人件費	給料	4,704,000	センター長・スタッフ2名
	法定福利費	719,758	社会保険・労働保険料
	人件費 計	5,423,758	
事業費	諸謝料	94,704	市民提案型まちづくり事業審査委員・講師謝金
	支払手数料	5,378	振込手数料
	福利厚生費	13,921	職員健康診断料
	水道光熱費	22,325	電気・水道料（中央市場使用7/15まで）
	リース料	165,888	ノートPC×3・デジタルカメラ×1
	新聞図書費	38,100	新聞×1、NPO関連書籍
	通信運搬費	218,621	固定携帯電話料・プロバイダ料、ブログ使用料、郵送料
	備品消耗品費	158,774	事務・拠点整備用品
	印刷製本費	191,700	広報紙×3・まちセンリーフレット
	旅費交通費	71,572	スタッフ交通費、駐車料金
	取材費	4,000	市民活動団体主催行事に係る参加費
	会議費	12,518	市民提案型審査会・講座・座談会など茶菓子代
	雑費	1,500	中央市場商店会費（4～6月分）
	事業費 計	999,001	
農村地域再生 発見事業費	諸謝料	125,000	アドバイザー料、座談会講師謝金
	備品消耗品費	35,208	ワークショップ消耗品
	印刷製本費	125,280	座談会レポート・地域再生発見事業リーフレット
	旅費交通費	50,900	アドバイザー旅費
	支払手数料	918	
	事業費 計	337,306	
	事業費 合計	6,760,065	人件費・事業費の合計
管理費		1,014,010	人件費・事業費合計の15%
消費税		621,925	管理費を含めた総事業費の8%
	合計	8,396,000	
	収支差額	0	

第4章 管理・運営

4-1. 事業推進体制

○センター開館について

- －開館時間：9:00～18:00
- －閉館日：日・月曜日・国民の祝日・慰霊の日・12月29日から1月3日
- －臨時開館：中央市場または市場周辺で行われる行事の日（7/15まで）

○市民活動支援センター事業部

センターを管理運営するためのスタッフを配置し業務の効率化を図った。

- －常勤：宮道喜一、上原千加子、川寄紋

○ボランティアについて

市内まちづくり活動に関連する新聞の切り抜き作業やセンター行事準備に係る作業を行うなど、センターの運営に関わるボランティアの受け入れを行った。

○インターンシップ・職場体験受け入れについて

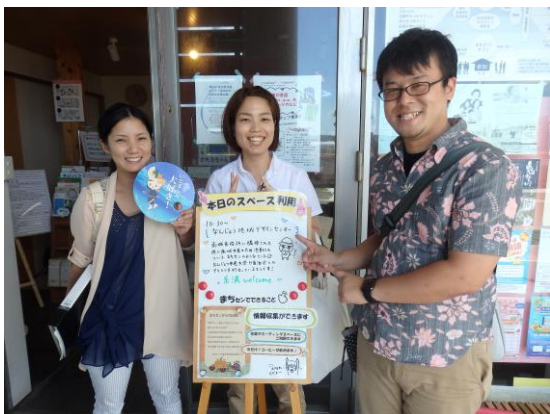
まちづくり活動に関する情報収集を行いレポートにまとめるなど、インターンシップとして市内生徒の受け入れを行った。他にも要望のある学生に対しヒアリング対応や授業協力を行った。

- －西崎中学校2名（11月10日～13日）
- －琉球大学子ども地域教育コース4名（5/16、7/25、11/26-27、12/26）

○視察・研修受け入れについて

センター拠点の見学をはじめ、センター事業の管理運営に関する情報収集のための視察研修の受け入れを行った。

- －なんじょう地域デザインセンター（9月30日）
- －中部社会福祉連絡協議会（10月21日）
- －豊見城市市民健康部まちづくり協働課（1月21日）



○県外市議会議員による行政視察対応について

糸満市議会事務局を通し、所管課の市民生活環境課とともにセンター事業に係るヒアリングの対応を行った。

- －福島県福島市議会（9月30日）
- －愛知県三豊市議会（1月14日）

4-2. 市合同月例ミーティング&スタッフミーティング

毎月第1火曜日の午後を市合同月例ミーティング、毎週火曜日の午前を定例スタッフミーティングと位置づけ、センター事業に関わる職員が集まり、情報の共有と事業に係る協議および利用者対応について話し合う場を持った。また、内容によっては定例日以外にも個別にミーティングを行い、業務の円滑化を図った。

スタッフ研修については、相談対応中の事例を挙げ予測される内容も含めて、その都度、研修を行い相談対応力の向上に努めた。また、沖縄県 NPO プラザや沖縄県社会福祉協議会をはじめとしたセンター外での講座や、まちなか研究所わくわく主催の沖縄地域社会ビジョン大学院 2015 を受講し職員のスキルアップを図った。

年に一度ではあるが、市内中間支援機関でパートナーシップを築いている社協ボランティアセンター職員と情報交換会を行い相互理解を深め、それぞれの事業に活かしている。

- －市合同月例ミーティング 原則毎月第1火曜日の午後
- －スタッフミーティング 原則毎週火曜日の午前
- －スタッフ研修（県 NPO プラザ主催講座、沖縄地域社会ビジョン大学院受講ほか）
- －ボランティアセンター情報交換会（9月15日開催）



市合同月例ミーティング



ボランティアセンターと情報交換



糸満市市民活動支援センター事業

2015 年度事業報告書

2016 年 3 月

発 行：糸満市市民活動支援センター

（管理・運営 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく）

〒901-0361 糸満市潮崎町 1-1 糸満市ふくらしや館

Tel & Fax : 098-992-5828

E-mail : itoman.saposen@gmail.com

Blog : <http://itomansaposen.ti-da.net/>